

# 帝国と民族のあいだ

パレスチナ／イスラエルをめぐるもうひとつの層

2023年 12月16日(土) 10:00-18:00

東京大学駒場Iキャンパス 21KOMCEE West B1F レクチャーホール (001) / オンライン同時配信  
要参加申込 (前日 21時まで)



二項対立図式に落とし込まれがちなパレスチナ／イスラエル。これに対し、今から半世紀前、板垣雄三は「n 地域論」を提唱し、権力構造の非対称性ゆえに生じる三者関係の動態に光を当てた。本シンポジウムは、この視座を発展させ、「帝国」と「民族」がせめぎ合う紛争や支配・被支配関係が継続するなかで人びとが生きるもうひとつの層に着目し、パレスチナ／イスラエルをダイナミックに捉えていく。また、そのような地域研究、歴史研究のための対話の場としたい。

## プログラム

### 10:00-10:10 趣旨説明

鶴見太郎+今野泰三・パレスチナ／イスラエルの変わらない構造—「n 地域論」のその後

### 10:10-13:00 第I部 重層性の現在形

高橋宗瑠・民族自決権と武力抵抗の権利／江崎智絵・ハマースにみる内政と外交の連動—その指導者間関係に着目して／山本健介・トランプ政権の中東和平政策とエルサレムの聖地問題—ラフマ門事件(2019年)を事例として／錦田愛子・中東和平の諸提案—共存と占領をめぐる政治構想の変遷／役重善洋・ジェンタイル・シオニズム再考—パレスチナ問題認識をめぐる闘争の現段階／末近浩太・コメント

### 14:10-17:00 第II部 埋もれた層を掘り起こす

今野泰三・ベドウィンが生きた帝国と植民地主義—パレスチナ北部のバイサーン地方を中心に／田浪亜央江・委任統治期パレスチナにおける独立運動と汎アラブ主義の相克—アクラム・ズアイトルの回想録を手掛かりに／鶴見太郎・集合的記憶の入植—ロシア東欧におけるボグロムとパレスチナにおける暴動／反乱／金城美幸・帰還の意味の広がり—パレスチナ難民と「48年国内避難民」の経験から／鈴木啓之・「無名」パレスチナ人と離散の記憶：難民化とアイデンティティの葛藤／宇山智彦・コメント

### 17:10-18:00 総合討論

参加申込・詳細は以下 URL / 右 QR コードから  
tarotsurumi.com/20231216



主催：パレスチナ／イスラエル・スカイプ研究会 / 共催：科学研究費補助金基盤研究 B「自己の諸側面から見るロシア・ユダヤ人の民族間関係：パレスチナ紛争に至る前史として」、科学研究費補助金基盤研究 B「ポスト・オスロ合意期におけるパレスチナ人の新しいネットワークと解放構想の形成過程」、東京大学中東地域研究センター